

bjリーグにおける使用施設の現状とベストアリーナの選出

Study on the current state of the facilities used in the bj league and selection of the best arena.

1K04B049-3

尾山 翠

指導教員

主査 原田宗彦先生

副査 倉石平先生

緒言

戦後 50 年の歴史の中で、国民体育大会や東京オリンピックなどを契機に多くの公共体育館が建設されたが、国民のスポーツに対する関わり方の変化によって施設に求められる役割や形態も変化してきた。

2005 年にアリーナで行われる初のプロスポーツリーグである、bj リーグが開幕したが、各チームが使用している公共体育館は、公益を第一とし、それぞれの地域に住む市民のための施設として位置づけられているものである。アリーナは天候に左右されず、音響や照明による演出がしやすいという特徴があるが、プロスポーツのために建設された施設はなく、エンターテインメントを生み出すだけの機能が備わっている施設は少ないというのが現状である。bjリーグは開幕して3年目という導入期にあり、これからのリーグの拡大、成長とともに施設の進化にも期待したい。

目的・方法

本研究の目的はbjリーグに所属する各チームが使用している施設の実態を把握し、プロバスケットボールに最も適した施設を選出することである。

2005-6 シーズン、2006-7 シーズンにbjリーグが使用した公共体育館やイベント会場の中で、2 試合以上行ったことがある 32 施設について、各チームのフロント職員を対象に質問紙調査を実施した。調査期間は 2007 年 11 月、有効回答数は 22(有効回収率 69%)であった。

調査項目は、大阪エヴェッサ加藤氏と bj リーグ日下部氏のインタビューをもとに、使用料金、照明・音響、交通・アクセス、その他それぞれについて、ハード面とソフト面の両側面からの実態を把握するものと、満足度を 5 段階で評価するものを作成した。

満足度の質問項目を5つのカテゴリーに分け、点数化し順位をつけた。各カテゴリーの 1, 2, 3 位にポイントを加算し、総合的に最もポイント数が多い施設をベストアリーナとした。

結果

集計の結果、富山グラウジーズのホームアリーナである富山市総合体育館がベストアリーナに選出された。

使用料金の平均金額は 823,474 円、前日準備料金の平均金額は 161,812 円であり、使用料金が無料であった長岡市厚生会館、小千谷市総合体育館をはじめとして 6 施設で自治体などによる減免措置がとられていた。

照明は全ての施設において常設されていたが、音

響に関しては常設されていない施設が 9 施設あり、音響に関する満足度の評価では、不満を持つ施設が多かった。

駐車場の平均駐車台数は 384 台であった。また専用利用できる台数の平均は 84 台であり、すべてのスペースを専用利用できる施設もあった。アクセス部門での満足度の点数が最も高かった施設は柏崎市総合体育館であった。

常設備品の有無についての項目では、富山市総合体育館とビーコンプラザでは会場づくりに必要な備品が最も充実していた。しかし常設備品の充実度に関する満足度評価の結果では、不満がある施設が多いようであった。利用可能な諸室の有無についての項目では、5 つの施設で充実した諸室が設置されていたが、審判専用のロッカールーム、プレスルーム、VIP 席は約半数の施設で不足していた。

客席の快適性に関する項目では、高評価である施設が多く、ほとんどの施設で観客席における土足の利用、アルコール販売が可能であった。ゴミの回収に関しては、有料で回収する施設が 13 施設、回収不可である施設が 7 施設とほとんどを占めた。また、17 施設で優先利用が可能であったが、開館時間の柔軟性に関しては不満がある施設が 9 施設あった。

考察

ベストアリーナに選出された富山市総合体育館はハードにおける評価が高く、最もエンターテインメントを楽しむ場を創出しやすいと考えられる。しかし競技者のための施設という性格が強い公共体育館では、会場づくりに最低限必要な備品や諸室が常設されていない施設が多く、構造上プロスポーツに対応できる施設は限られていると考えられる。一方、優先利用や観客席の土足利用、アルコール販売などを許可している施設が多いことから、全体的に自治体や施設側の対応が協力的であるということがわかった。

結論

「する」スポーツに標準を合わせた施設が多く、ハード面から見てbjリーグに適している施設は限られているのが現状である。しかし自治体や施設側の協力により、アリーナスポーツによる新しい施設経営の一步を踏み出している施設も多くみられた。今後は今回回答を得られなかった施設を含めすべての施設を評価し、よりbjリーグに適した施設を見出していくと共に、自治体や地域との理想的な関係を構築していくことが必要である。